

この度、私にとって3年振りとなる個展を開催いたします。2003年の初個展以来、黒一色のボールペン画というシンプルな画法に絞って制作してきましたが、本展では新たな可能性を求めて取り組んだ色彩を使ったコラージュや、文字をモチーフにした立体なども初披露いたします。

そして今回のテーマである「絵と呪」。私が考えたい「呪(じゅ)」は「のろい」かつ「まじない」で、悪意も善意もひっくりめた、目に見えない人の思念へのアプローチです。

この20年でネットやスマホが一気に普及、さらにコロナ禍を経て実態のない情報空間でのコミュニケーションが比重を増し、モニターに映し出された「文字情報」で影響を与え合う様相は、まさに呪術戦だと感じることがあります。

形のないものに形を与えるのが画家の特性のひとつと思う私は、以前からのテーマであった形而上学的な美と畏怖への探求をもとに、「形ある絵」によって「呪」の力に迫ることができればと考えています。

特設サイト



展示作品を閲覧・お問い合わせいただけます。



「土器 -地-」 550×560mm 紙にボールペン・木に工芸漆 2021年

# 絵と呪

## 酒井崇展

2022年10月4日(火) - 10月9日(日)  
 11:00~19:00  
 初日は13:00から  
 最終日は16:00まで

酒井崇(さかいたかし) ボールペン画家。ペン画というシンプルな技法に絞り込むことで、紙一枚へ執拗に念を込めながら絵を浮かび上げさせる。個人的な記憶を入口に、日本人の土着的、呪術的な美意識を探る。

1978年長野県飯田市生。2003年多摩美術大学油画専攻卒業。東京、長野で展示多数。「第9回 ドローイングとは何か公募展」準大賞(2021年) / 「シエル美術賞2011, 2017」入選ほか

Instagram: @tak\_sakai Twitter: @ballpointsakai  
 Email: takasakai39@gmail.com

Japan Creative Arts Gallery

東京都中央区日本橋茅場町  
 3-12-9 NIビル B1F

TEL: 03-6661-2716

http://jcagallery.net



●東京メトロ「茅場町駅」徒歩1分(1番出口)



Event

ギャラリートーク「呪とデジタルコミュニケーション」他

プレトーク動画



酒井崇 × アーティスト 四宮スズカ  
 10/8 14:00~  
 (予定) 中詳細へは

6月に収録した対談の映像をご覧ください。

※開催時のコロナ感染状況等により急遽変更する場合があります。ご来場前に作家のTwitterをご確認いただくと安心です。

# 酒井崇展 絵と呪

Japan Creative Arts Gallery  
 東京都中央区日本橋茅場町 3-12-9 B1F

2022年10月4日(火) - 10月9日(日)  
 11:00~19:00 (初日は13時から・最終日は16時まで)



滴 2020年 木に工芸漆 60×60×60mm



本欄より：『日本の霊性』梅原猛／『聖堂冥郷 やま』大林太良 他編集／『道祖神散歩』野中昭夫／『加曾利貝塚』／『この世とあの世の風通し』加藤清／『恐山』宮本義俊／『シャーマニズムの世界』佐々木宏幹／『呪の思想』白川静×梅原猛／『古代諏訪とミヤガジ祭政体の研究』今井野菊、北村智雄、田中基、野本三吉、宮坂光昭、古部族研究会

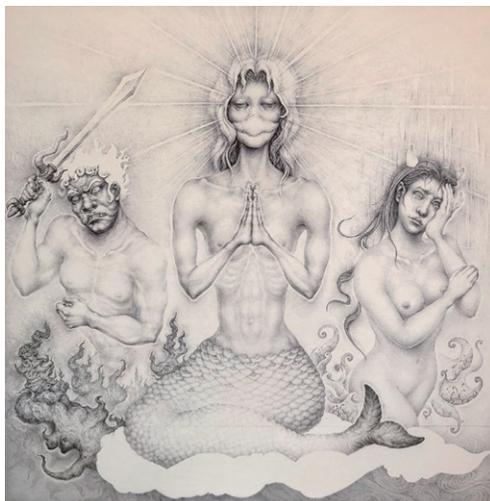
**古** 代宗教や縄文に  
関する本を読み  
ながら、物に神  
が宿ることについて思  
いを馳せている。  
かつて読んだ小林秀  
雄の本に、美術愛好者  
はすべて偶像崇拜者で  
ある、とあった。たう  
な記述があったと記憶す  
る。その時はピンと来  
なかつたけど、今はそ  
のことをよく考える。  
ただの日用品と美術品  
には境目があって、わ  
ざわざ後世に残すのは、  
何か異質な物だろう。

芸術家は平面なり立  
体なり、形あるものを  
作り、そこに価値を与  
えようとする。さらに  
その価値とは、有用で  
あるということでもな  
い。僕があえて言葉に  
するなら「美しい」と  
いう事だけど、それは  
いわゆる「美しい」で  
もない。形而上学的な  
何か、呪力を持つよう  
な物を僕は想像する。

樹園に転がる間引きさ  
れた小さなリングが最  
適だと発見した。抜群  
に蹴りやすく、転が  
るのだけど、それが仇  
となって次々と用水路  
へ落ちて脱落していく。  
そんな中、奇跡的に水  
路を避け続け、パイバ  
イする最後まで生き延  
びたリングがあった。  
興奮した僕と友人はそ  
れを「伝説のリング」  
と命名した。今思えば、  
まるで民間信仰の始ま  
りのような話だ。  
(2020・10・1開催×モヨリ)

「三尊 -怒り、悲しみ、慈しみ-」2020~22年  
S30号 (910×910mm) 紙にボールペン

「デーモンニッシュ」2021年  
165×230mm ボールペン、水彩・アクリル絵の具



Takashi Sakai



写真：Yoshika Horita

まず。ギャラリートークについて、と、テーマ。

個展会場内にて、僕から指名させていただいたアーティスト四宮スズカさんとのギャラリートークを開催いたします。トークを企画するにあたり、同世代の慣れた友人同士の子定調和や同調をお見せしても盛り上がりたらないだろうと思いました。そんな時に会った四宮スズカさんは、僕にとって強い他者性を持って凛と立つ作家さんで、この方とそれぞれの音色でセッションしてみたらきっと面白いなと思いました。

僕から提案するトークテーマは、「呪とデジタルコミュニケーション」。僕の作品テーマに「呪」や「文字」があったこと、スズカさんとの出会いのきっかけが情報空間のTwitterであったこと、スズカさんのTwitter上の文字は念のこもった強さを放ち、呪術的だとさえ感じたことに由来します。

テーマ ① from 酒井崇

## 呪とデジタルコミュニケーション

ギャラリートーク

酒井崇 × 四宮スズカ

10月8日  
14~16時

Event

テーマ ② from 四宮スズカ

## 無意識の起源

酒井さんからギャラリートークのお話をいただいた時、強く頷きました。酒井さんは不思議な人物に思います。ふわふわして見えた後、どこと発信したのか突拍子もない論理性を話し始めます。私は自己を引き合いにして、この謎の人を聴衆の前に暴き出すことをこのトークの目標にしたいと思います。

私からは「無意識の起源」という話題をひとつ。奇妙なことに、何をしていいかわからないのに、それをわかっている時があるように思います。好感と嫌悪感は何故生じるのでしょうか。酒井さんの作品は時に本人が意図しないにもかかわらず、何かを達成した振る舞いを見せます。到達点は歴史上全く異なる背景から同じ解を導くことが多く見られますが、誰も知らないそれを何故、わかっているのでしょうか。そしてそれは誰しもにとって、あるのでしょうか。そのような捉え難くキリのないことを引き合いに様々トークできればと思います。



2011年、香川県高松市生前提（世界、事象、概念）の成り立ちや構造性を自他の観察や趣味の歴史を通じて考察し、発見した事象（概念）を作品として発表している。